キリスト教委員会のHP(http://rakuno-ce.org)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

主人公と目される青年は20歳のエリートですが、彼は「他人に借りを作るべからず」という家訓に基づき厳しく育てられてきました。借りを作らない、とくに借金をしない、ということは生きてゆく上で結構大切なことです。自分の借金はもちろん他者の保証人に気軽になると、思わぬ借金を背負うことにもなりかねません。ですから、借金をしない、というモットーであれば、理解できないこともありません。

とはいえ、愛は自発的に与えるものであり、そもそも普通の「借り」と同列には考えられません。愛にだけは、「借り」があってもよい、というのが今日のお話のテーマです。愛されたら、その分だけ愛し返さねばならない、というルールはありません。返せないほどたくさん与えられても、それを受け取ってよいのです。とくに神の愛は、そもそも返せるものではありませんから、プレゼントとしての救いを無料で受け取ってかまわないのです。Priceless という語は値がつけられないほど尊い、という意味でつかわれますが、それは見方を変えれば無料ということでもあるのです。

【クリスマスのご案内】

2026 年の教会暦ではアドヴェント（待降節）は 11 月 29 日（日）から始まりますので、大学のアドヴェントは 12 月 1 日（火）の礼拝からとなります。また、クリスマス礼拝は 12 月 20 日（日）に行われますので、大学のクリスマス礼拝は 12 月 22 日（火）に行います。この機会に教会のクリスマス礼拝やイヴ礼拝に行ってみたい学生がいましたら、札幌近郊だけではなく、道内と道外を含めた各地域の教会も紹介できますので、大学宗教主任、学園宗教主事、キリスト教学の授業担当者にお尋ねください。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員有志による聖歌隊が合唱をしています。礼拝の前と後にオルガン前で練習をしています。歌ってみたい方は練習にお越しください。参加できるときに一緒に歌ってくださることも可能です。

【次回の大学礼拝（アドヴェント礼拝）】2026年12月1日（火）10時40分
聖　書：詩編 46 編 2−3 節
奨　励：「朝の道で心を整える」髙島英也（酪農学園理事長）
讃美歌：21−484（主われを愛す）、21−377（主はわが砦）

【前回の大学礼拝】2026年11月17日（火）
学生：45名　教職員：8名　合計：53名

【大学礼拝週報】2026 年度 第 24 号（後学期第 9 号）

2026 年 11 月 24 日（火）午前 10 時 40 分
酪農学園大学 黒澤記念講堂

司　　式　髙橋優子（獣医保健看護学類教授）
奏　　楽　佐藤理恵（日本基督教団野幌教会オルガニスト）
讃美指導　相原晴伴（農環境情報学類長・教授）

前　奏	イエスはわがのぞみ（ラインハルト作曲）
讃美歌	“Step by Step”
聖　書	ローマの信徒への手紙 13 章 8 節 a
さんび	酪農学園大学聖歌隊
奨　励	「『荒川アンダーザブリッジ』にみる愛と借り」
祈　り	髙橋優子（獣医保健看護学類教授）
讃美歌	“As The Deer”
報　告	
後　奏	おお神よ、汝いと高き恵みの神よ（リューデケ作曲）

【本日の聖書】ローマの信徒への手紙 13 章 8 節 a（新共同訳）

8a 互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。

【奨励】「『荒川アンダーザブリッジ』にみる愛と借り」

『荒川アンダーザブリッジ』は『聖☆おにいさん』の作者である中村光氏が描いている作品です。東京の荒川にかかる橋の下に住むホームレスの物語ときけば、暗い物語かと思いますが、以前はじめて読んだときには爆笑の連続でした。とくに今日のお話やスライドには入れませんでしたが、小さなかわいい少女が何かといえば北斗の拳に出てくるような筋肉ムキムキの体に変身するシーンでは息ができないほど笑っていました。カオスな世界ですが、そこがよかったのもしれません。